

2. 地域特産材を複合させた公共用製品の開発研究（第3報）

坂下仁志* 石井信義**玉造公男***

1. 目 的

豊富に産出される地域特産材の有効利用やそれらを複合した製品開発は、当所設立以来の研究テーマであり、台風災害として地域を取り巻く山林に今も大きな爪痕が残り、木材の価値も下落したままの状況が続いていることから、地域の産業振興にとっても、木材の生活の中に占める地位向上のためにも重要な課題である。

当所では、平成2年度から標記テーマのもと、3カ年計画で研究に取り組んできたが、本年度はその最終年度である。

今日、一般的にもデザインの概念が多様に拡大するとともに、専門家のみならず多方面で安全性や景観を含めた環境問題等、従来の製品開発時のチェックポイントの枠を越えた取り組みの必要性が語られるようになってきた。

開発側のコスト原理の中だけで創られたモノでは、真の豊かさの実現が困難なことが明確になりつつある時代にあっては、それぞれの場面でモノ・コトに係わる関係者は、すべからくヒト、環境、景観および個々の製品との調和を図ろうとする視座が求められている。

そこで、本年度は第1報、第2報の結果を踏まえて、デザイン開発および特産材の複合による製品開発を行うとともに、地域内企業が本研究テーマと関連する製品開発を行う機会を捉えて、個々の指導依頼に対し積極的にデザイン開発・製作支援を行い、実用事例として提案していくとともに、具体的な評価、批評を得ることにつなげていくことを目的とした。

*デザイン研究室**加工技術研究室***塗装技術研究室

2. 方 法

- 2.1 開発コンセプトの設定
- 2.2 デザイン開発と試作
- 2.3 「公共用品」のデザイン開発支援

3. 結 果

3.1 開発コンセプトの設定

第2報で、「公共」の概念として公共空間とそこに係わるヒトとの関係を道具と行為を中心として捉え、道具系の「ストリートファニチュア」「サイン」「遊具」の3つと、行動・行為系の「休息する」「集う」「遊ぶ」の3つのキーワードを設定したが、この考えの中で開発試作に関して、本年度は以下のコンセプトを設定した。

3.1.1 公共施設のロビー空間を想定した、「ストリートファニチュア」×「休息する」をキーワードとする『ベンチ』で、主要素材としてスギ材を丸太のままどっしりを使い、安定感を求めたものとした。

3.1.2 公共施設の大型空間を想定した、「ストリートファニチュア」×「集う」をキーワードとする『テーブル&ベンチ』で、主要素材としてスギ材を角柱のまま力強く使い、安心感、固有空間性を求めたものとした。

3.1.3 公共施設のロビー空間を想定した、「ストリートファニチュア」×「休息する」のキーワードに通信コミュニケーションを付加した電話機設置のための『電話BOX』『電話台』で、主要素材としてスギ材を角柱のまま力強く使い、安心感、遮断感を求めたものとした。

3.2 デザイン開発と試作

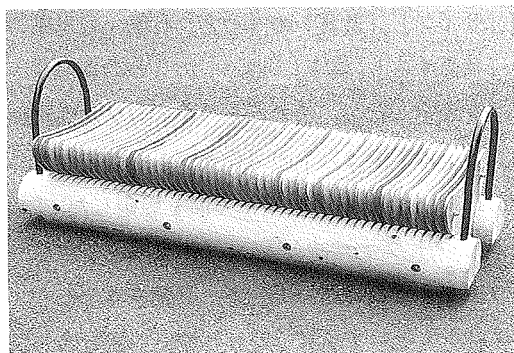
3.2.1 ベンチ

座面部は、NCルータを使って大量に定形切削した12mm厚さの合板を連ねて造形した。

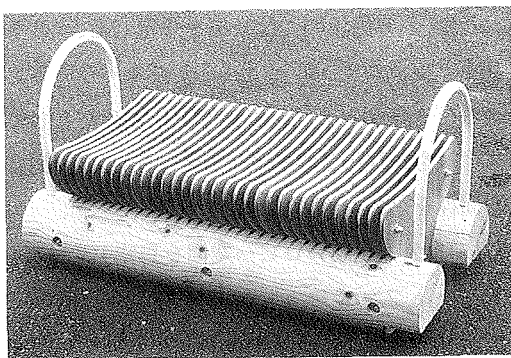
脚部には直径200mmφのノギ丸太を2本使用した。全体は、脚部に座面部を挟み乗せるとともに、脚両端部には樹脂コーティングを施した金属丸パイプを手摺として取り付けて構成した。これは、『コムベンチ』と命名し、第1報以来のウェイブベンチシリーズのⅣと位置付け、3種4点試作した。

- ・コムベンチ（大、1800W×600D×615H）
- ・コムベンチ（中、1200W×600D×615H）
- ・コムベンチ（小、900W×600D×615H）

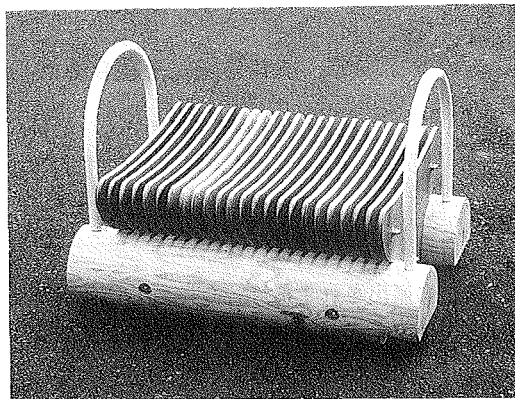
（写真-1，2，3）



（写真-1 コムベンチ、大）



（写真-2 コムベンチ、中）



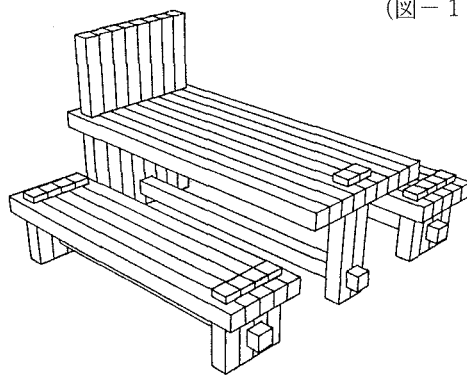
（写真-3 コムベンチ、小）

3.2.2 テーブル&ベンチ

全体構成は、100mm角の柱状部材を使って、ログハウスの工法を取入れ、緊結にはテーブルトップや座面の平滑性を保つために部材間に雇い核を挿入しながら、ボルト・ナットで締め付けて構成した。また、脚部材をテーブルトップに貫通させて空間の間仕切り機能をもたせた。『談話セット』と命名した。

- ・テーブル（1980W×900D×1200H）
- ・ベンチ（1800W×500D×460H）

（図-1）



（図-1 談話セット）

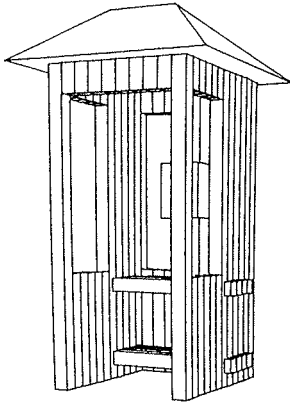
3.2.3 電話BOX、電話台

全体構成は、100mm角の柱状部材を使って、ログハウスの工法を取入れ、緊結には平滑性を保つために部材間に雇い核を挿入しながら、ボルト・ナットで締め付けて構成した。また、電

話台には、一部スギ集成材を使用して掲示物を貼付できるようにした。

- ・電話BOX (1120W×1200D×2600H)
- ・電話台 (2000W×700D×1800H)

(図-2, 3, 写真-4)



(図-2 電話BOXの外観透視図)

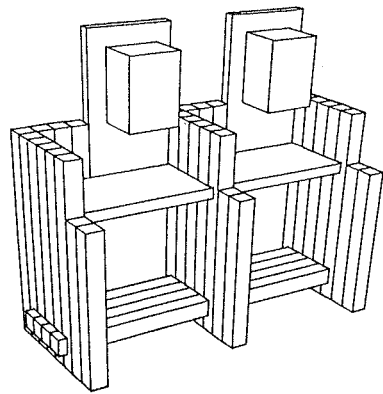
3.3 「公共用品」のデザイン開発支援

本テーマに取り組むなか、幸いにも関連ある2つの指導依頼があったことから、これらを研究の一部に位置付けて具現化に取り組んだ。

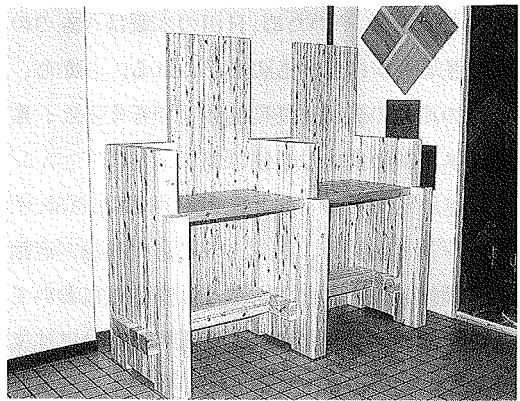
3.3.1 (3.2.2) で開発したものは、県立NK高等学校の事務長からの依頼に基づくもので、内容は「新築する校舎の棟間に大屋根を架けた全天候型の広場が出来るが、そこで生徒達がくつろげる木製のテーブル、ベンチが欲しい」という主旨であった。(写真-5)

3.3.2 (3.2.3) でデザイン開発したものは、H工房からの依頼に基づくもので、内容は「木製の洒落た公衆電話ボックスの開発を受注しているので」という主旨であった。

なお、これら二つの事例の詳細な内容については、指導報告「7. 公共用家具のデザイン開発指導」の項(P19)に記載しているので参照して頂きたい。



(図-3 電話台の外観透視図)



(写真-4 電話台)

4. 考 察

本研究実施中に当所の目的に合致する指導依頼があり、県立NK高等学校の事例では、「場」「スペース」の施工と同時進行でデザイン開発に取り組めたことは、幸いであった。

3カ年の継続研究を通して「公共」空間の構成に関する製品アイテム・デザイン開発、開発指導に係わり、諸問題に対する考え方を整理してきたが、生活者の意識の集積と公共資産の充実が密接に係わっていることは明らかであり、公共・デザインの重要性の啓発等を開発・設置と同時に行うことが、個人的も公共的にも真に豊かさにつながっていくと信じる。